

インド・ラジャスタン州東部の都市近郊一農村における商工業活動について

岩 崎 公 弥*

I 調査の目的と方法

1987年7月から9月にかけて、「インド干ばつ常習地域の農業と村落変化」と題する広島大学を中心としたインド調査が行われ、筆者もその一員として参加する機会を得た。今回の調査は乾燥地域におけるインド村落の地誌的調査の第1回目であり、調査地としてラジャスタン (Rajasthan) 州東部の村を選定した(図1)。本稿では、地方都市バンディクイ (Bandikui) という都市近郊農村の商工業活動について報告することとする。



図1 調査地域の位置と主要都市

アバネリ村は純農村とは言いがたい側面を持つ。それは男性の主な労働者総数306名のうち、農業外

の労働者数は58名で、その割合は19.0%に当たり、周辺農村に比べその比率は倍近く高い¹⁾。それは本村が、古くからブラーミン層を中心とした中心集落を持ち、以前から当地域の中心地として機能してきたことと、バンディクイという都市に近接してその都市的影響下にあったことが、本村に近郊農村的性格を与えていると考えられる。

そこでここでは、バンディクイ周辺の商工業活動を概観した上で、アバネリ村の経済活動が如何なる状態にあり、それがバンディクイとどの様な関わりを持つのかを明らかにしたい。さらにバスワ郡 (Baswa Tashil) 最大の都市であるバンディクイとは、如何なる都市的性格を持っているのかを、都市機能という面から明らかにしていきたい。

アバネリ村における商工業については、関連の全地帯について聞き取り調査を実施した。バンディクイに関しては、バンディクイ町役場 (Bandikui Municipal Office) や地区開発局 (Block Development Office) における聞き取りなどを行った。

II バスワ郡における主な村落工業の分布

表1は、1980/81年におけるバスワ郡内の主な手工業の分布を村別にみたものである。この内、大工・陶工・織布業などが代表的な農村手工業である。バスワ郡172村のうち大工のいる村は34カ村 (19.8%)、陶工のいる村は31カ村 (18.0%)、織布業のある村25カ村 (14.5%) となっている。このうち大工と陶工の分布は、かなり類似性がある。

*愛知教育大学地理学教室

表1 バスワ郡における諸工業の分布 (1980-81)

町 村 名	A	B	C	D	E	F	G	工業体数
Baswa	○	○	○	○	○	○	○	7
Bandikui	○	○			○	○	○	5
Biwai	○	○	○	○				5
Gurha Katla		○		○	○	○	○	5
Pundarpara	○		○	○	○		○	5
Bandiyal Kalan	○		○	○	○		○	4
Anantwara	○		○	○	○		○	4
Balahera	○	○	○	○		○		4
Nandera	○		○	○	○			4
Delari	○		○	○	○			3
Unbadagaon	○		○	○	○			3
Abhaneri	○		○	○	○			3
Arniya	○	○	○	○	○			3
Baijupara	○		○			○		3
Chandera	○		○		○			3
Dhanawar	○		○	○	○			3
Dhigariya Bheem	○		○	○	○			3
Gulana	○		○			○		3
Gurhaliya			○	○	○			3
Jhajhi Rampura	○		○	○	○			3
Karnawar	○	○			○			3
Lotwara	○			○	○			3
Muhi	○		○		○			3
Peechupara Kalan	○		○		○			3
Peechupara Khurd	○		○		○			3
Shalawas Kalan			○		○		○	3
Syalawas Khurd	○		○		○			2
Acheri					○	○		2
Bhanwata Bhanwati	○		○					2
Golada	○				○			2
Gurha Ashikpura	○		○					2
Higota	○		○					2
Kolana			○	○				2
Nangal Jhamarwara	○		○					2
Nihalpura	○		○					2
Ralawata	○		○					2
Bandikui Jageer				○				1
Badiyal Khurd	○							1
Batenda	○							1
Bhandera					○			1
Gadarwara Goojaran						○		1
Gurha Katla		○						1
Hingota					○			1
Liloj					○			1
Muhi khera			○					1
Mundghisya				○				1
Nangal								1
Pratappura	○							1
町村数	33	7	31	17	25	8	6	
従業者数 (人)	294	20	290	105	188	146	55	1098

注) A:大工 B:鍛冶 C:陶工 D:籠作り E:織布業 F:皮革業 G:その他
(District Center of Industry, Jaipur 1980-81 による)

大工と陶工の両方がいる村は25カ村あり、これは全体の14.5%に当たる。大工や陶工は、カーストの生業として行われているものである。それに対して織布業は、比較的新しい農村工業である。鍛冶屋はあまり多くないが、これは主として高次中心地に多くみうけられる。いずれにしろ本地域においてはそれほど特異な工業はみられない。

次に織布業の例を見ることとする。これら農村地域において作られる織物は、カディ (Khadi) と呼ばれる手紡ぎ綿糸を用いた手織の布である。バンディクイには地方カディ農村工業 (Regional Khadi Rural Industry Bandikui) と呼ばれるカディ生産事務所がある。この事務所は、1971年に建てられたものでその目的は2つある。1つは農村の人々に対しある種の雇用機会を提供することであり、もう1つは農村の人々に対し安く衣服を提供することである。生産の方法は、まず周辺の農民が月曜日にこの事務所ですぐ5kgの原綿を受け取りその綿から織糸を作って再びそれを1週間後に持参する。これに従事する労働者の数は約800人ほどである。事務所はその賃金として綿1kg当り6ルピーを支払っている。したがって糸紡ぎ業者は月に60~150ルピーの賃金を得る。次に事務所は20kgの糸を水曜日に織布業者に渡す。織布を行うものは、約85人である。織布業者は2週間後の水曜日に布を持参する。そこで彼らは15mの布で約30~50ルピーを賃金として受け取る。したがって織布業者は月に500ルピー (羊毛の場合は700ルピー) を得る。これらの業者はバンディクイ周辺約38カ村からやって来る。以上の生産形態は、問屋制家内工業の段階と同様であり、問屋の代わりに政府の機関がその役を引き受けた恰好となっている。原料である綿はジャイプール (Jaipur) 及びアーメダバード (Ahmedabad) の市場より仕入れ、羊毛はビアワール (Beawar) からそれぞれ仕入れる。

操業は、通年操業であるため、恒常的な雇用を提供することも目指している。織布業は元来コーリ・カーストの職業であった。現在バンディクイ・ブロックには約400戸近いコーリ・カーストがいるが、うち約80戸がこのカディ織者生産に従事している。多くのコーリ世帯があるにも拘らずその機会に恵まれないのは、情報不足によるところが大きいという。これらの農家の年収は約2~3000ルピーであり、原綿供給の不安定さ故に恒常的な雇用が困難な状態にある。

III 地方都市バンディクイの都市的性格

アバネリ村の商工業について考える前に、同村にとって大きな影響を持つと考えられるバンディクイについて、その都市的性格及び都市構造を分析しなければならない。

バンディクイは、ジャイプール県 (Jaipur district) で第5番目に設立 (1956年) されたバンディクイ・パンチャート・サミティ (Bandkui Panchayat Samiti) のオフィスが所在する町である。バンディクイはデリー (Delhi) —アーメダバード間の鉄道路線とジャイプール—アグラ (Agra) 間の鉄道路線の結節点に発達した町で、人口は15,873人 (1981年) である。1961年時の人口が10,638人であるから、この20年間の人口増加率は49.2%である。³⁾ 1961年から1981年までのジャイプール県全体の人口増加率が80.8%であるから、このバンディクイの人口増加はかなり低いものと言わざるをえない。それはバンディクイが、鉄道雇用を中心として発展してきた都市であるためと考えられる。バンディクイには鉄道植民区域 (Railway Colony) があり、バンディクイの主労働者 (Main Worker) 3,636名のうち1,392名、38.3%が鉄道植民により都市化された区域で就業していることから、その影響は非常に大きいと考えられる。したがって人口数の割には都市内における

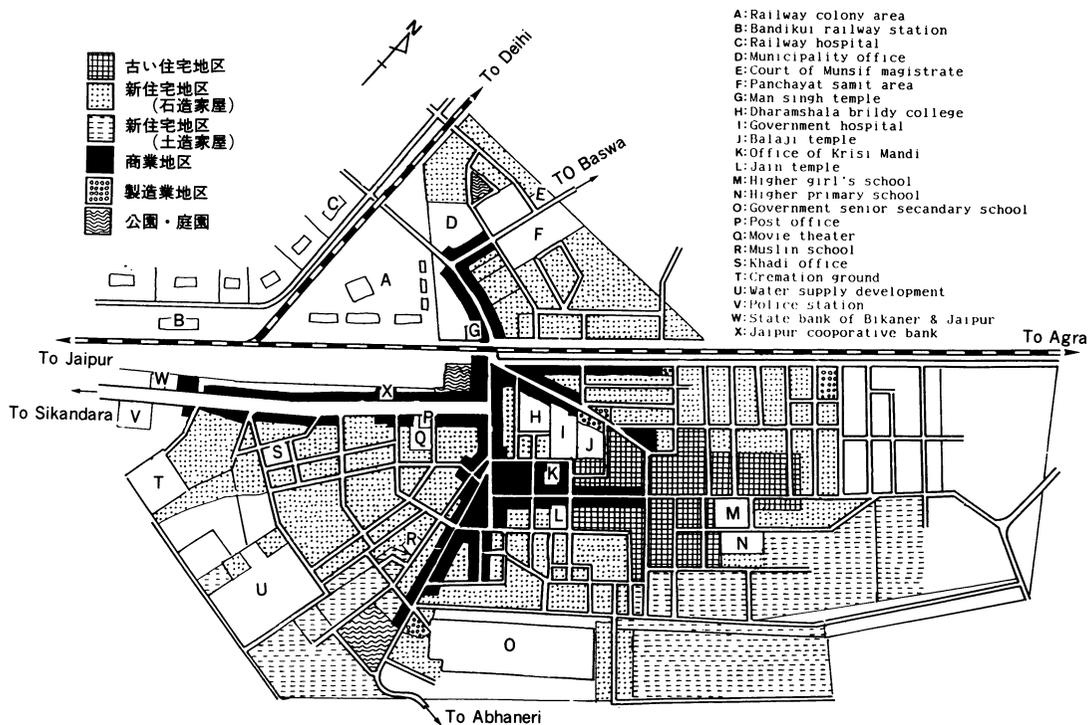


図2 バンディクイの土地利用（縮尺不明）（1987年8月実態調査による）

工業の比率が小さい。1971年におけるバンディクイの主たる移出品は、バジラ・コエンドロの実（Coriander）・小麦で何れも農産物であり、工業製品は含まれない⁵⁾。バンディクイには、州政府及び中央政府の出先機関が多く置かれている。この点ではバスワ郡の首都であるバスワに比べ格段にこのような公務機関が多い。

バンディクイは都市自治体として、3つの市場を管理している。それは、野菜市場・穀物市場・一般市場である。管理の内容は、中心道路の清掃・街灯照明・市場の法的秩序の維持・店の新設や改装についての許可・営業許可の発行・市場維持のための税の徴収などである。毎日約300人が日用品を、約100人が穀物を売のために市場を訪れると言う。

図2はバンディクイの土地利用を示したものである。市街地は、鉄道によって大きく三分されて

いる。町の商業中心は、穀物市場を中心とした地区で、多種類の商店が軒を並べている。この市場事務所は、1970年に建てられたもので、周辺地区は、1900年以前からの古い市街地を形成している。この地区の建造物は、3～4階建ての構造を持ち、バンディクイの中では最も高層化したところである。その周辺には、その後建てられた新しい住宅地区が広がっている。その多くは、1～2階建ての家屋で、石造りである。さらにその周辺には、土造りの家屋群が立ち並んでいる。これらは、主としてバンディクイの東南部の川沿い低地に集中しており、陶工などが居住している。商業地区は、穀物市場地区から、シカンドラ(Sikandera)とバスワを結ぶ道路沿い及びアバネリ村へ向かう道路沿いに発達している。バンディクイの東北地区は、鉄道植民区域で、最も新しく開発された地区である。この地区はそれ自体が一つの小さな町を形成

表2 アバネリ村の商店一覧

No	カースト	店の種類	店の規模	仕入れ地	開設年次	他の職業	所有農地	父親の職業	現物交易	一日の収入
1	Jain	雑貨商	29m ²	バンディクイ	1983	無	無	商店経営	無	10-15ルピー
2	Brahman	雑貨商	29m ²	バンディクイ	1981	農業	3.7エーカー	農業	有	10-15ルピー
3	Brahman	雑貨商	29m ²	バンディクイ	1962	農業	14.3エーカー	農業	有	10-15ルピー
4	Brahman	雑貨商	9 m ²	バンディクイ	1985	農業	2.1エーカー	農業	有	20-25ルピー
5	Gupta	雑貨商	9 m ²	バンディクイ	1946	農業	2.5エーカー	商店経営	無	5-10ルピー
6	Brahman	雑貨商	5 m ²	バンディクイ	1986	無	無	農業	無	5ルピー
7	Brahman	雑貨商	8 m ²	バンディクイ	1986	農業	1.2エーカー	農業	無	10-15ルピー
8	Gupta	茶店	28m ²	バンディクイ	1975	農業	2.2エーカー	商店経営	無	10-15ルピー
9	Sain	医療品店	28m ²	バンディクイ ジャイブル	1986	無	3.7エーカー	公務員 農業	無	40-50ルピー
10	Gupta	衣服商	22m ²	ジャイブル	1979	農業	2.5エーカー	商店経営	無	?
11	—	農協店	223m ²	バンディクイ	1956	穀物貸付	無	—	無	?

(1987年8月実態調査により作成)

しており、学校・病院・教会・寺院・市場などの
様々な生活施設が整っている。⁶⁾

IV アバネリ村の商工業活動

1) アバネリ村の商店の種類と立地

表2にアバネリ村の商店の一覧を示す。店の種類としては、雑貨商7（うち4つは茶店を兼ね

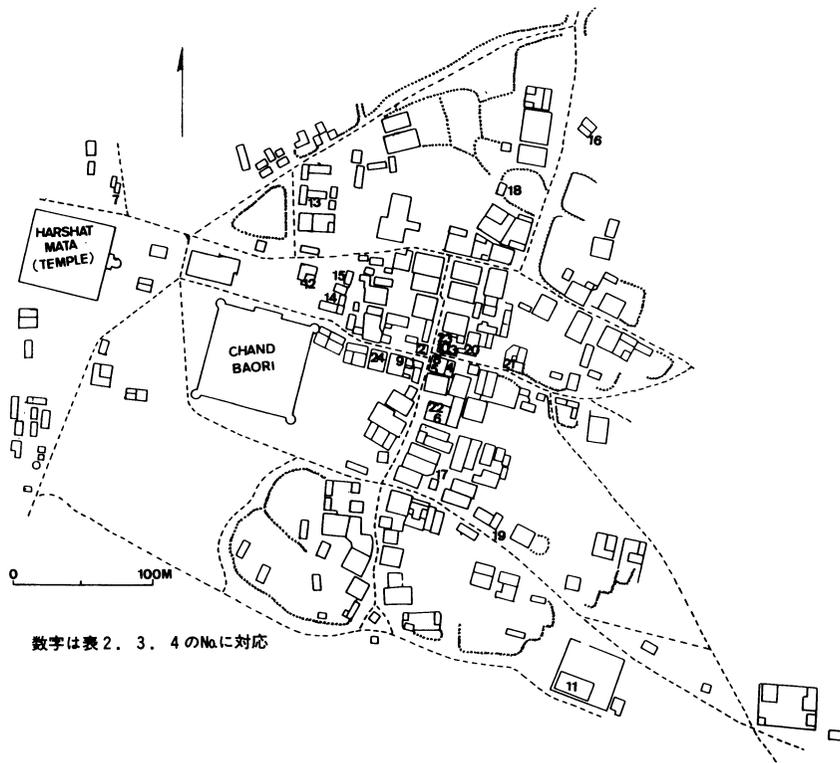


図3 アバネリ村の商店及び手工業・サービス業者の分布 (1987年8月実態調査による)

る)、茶店1、医療品店1、衣服商1、農業協同組合売店1となっている。1961年調査時点における商店は、雑貨商3、衣服商1となっているので、この25年ほどの間の変化としては、雑貨商の増加が目だっている。これらの商店は、農業協同組合売店と村の人口に近いところに立地する1軒の雑貨商を除き、総てチャンド・バオリ (Chand Baori)⁸⁾ から東に伸びるアバネリ村の中心道路に沿って立地しており、そこには常時十数人の村人が集まり、世間話をし時には様々な情報を交換する場所ともなっている。そのためそこにはしばしば野菜やミルクを売りに村人も訪れる。(図3)

2) 各商店の営業形態

まず最も多くみられる雑貨商についてみると、取扱商品は、米・砂糖・塩・油・各種豆類・菓子などの食料品の他、石鹼、マッチ・タバコ・茶などの日用品が主で、各商店とも大差ないが、中には茶店を兼業するものが約半分いる。雑貨商の多くは、ブラーマン層である。仕入れはすべてバンディクイより行い、仕入れ回数は店により異なるが、在庫量は大体1カ月分位を用意しているようである。交通手段としては、自転車および牛車 (Bullock Cart) が使用される。店舗の規模も大きいもので30m²以下と狭いので、在庫量も自ずと

小さい。またバンディクイまで5から6kmと近いこともあって、在庫量はそれほど多くない。雑貨商の法的組織型は、2つを除きすべて個人経営の店である。7つの雑貨商のうち4つは、1980年に降に開設されたものであり、ブラーマン層の新たな動きの一つとしてみる事が出来るのではなかろうか。これがどのような意味を持つのかは即断できないが、これら新規の店舗経営者は、農地を持って農業との兼業を行っていたり、あるいは父親が農業を行っていたというように、何等かの形で農業を基盤にしていた層であることから、これはブラーマン層においても兼業化が進行しつつあることを物語るものではなかろうか。現物交易 (Barter) については、3つについて行われていた。何れも極めてまれであると言う。1日の収入は、10から15ルピー程度である。大体茶1杯が1ルピーであるから、茶店の場合是一日の客数は20人前後ということになろう。顧客域としては、何れも大体アバネリ村周辺の数カ村といったところである。

医療品店には、医者がおりに同時に簡単な診療も行う。仕入れは、バンディクイの他に物によってはジャイプールまで出向く。

衣料品店は1軒だけで、かなり古くからあったと考えられる。商品としては、サリー・タオル・

表3 アバネリ村の手工業者一覧

No	カースト	種類	従業者の続柄 (年齢)	兼業	開設年次	月間生産額	現物交易	主たる燃料	最盛月	主たる顧客
12	Kumhar	陶工	世帯主(45)次男(18)	農業	世襲	500ルピー	有	木	3-7	Gujar, Mali
13	Kumhar	陶工	世帯主(55)妻(50) 義理の娘(15)	農業	世襲	?	有	木	3-7	Gujar, Brahman
14	Kumhar	陶工	世帯主(53) 長男(25)次男(20)	農業	世襲	1000ルピー	有	木	4-8	Gujar, Brahman
15	Kumhar	陶工	世帯主(50)長男(20)	雇用労働	世襲	1200ルピー	有	木	4-8	Gujar, Brahman
16	Jangid	製材業	長男(35)次男(28)	製粉業・農業	1986	7000ルピー	無	電力	年間	Gujar, Brahman
17	Jangid	大工	世帯主(70) 次男(19)三男(17)	無	世襲	1500ルピー	有	無	年間	Gujar, Brahman
18	Jangid	大工	世帯主(26)	農業・技師	1984	3500ルピー	有	石炭・電力	年間	特に無し
19	Jain	製粉業	世帯主(55)	無	1986	900ルピー	無	電力	年間	Gujar, Brahman

(1987年8月実態調査により作成)

簡単な綿製衣服などである。仕入れはジャイプールで行う。

アバネリ村には、農業協同組合の売店が存在する。この売店はアバネリ村周辺の9カ村を管轄しており、組合員総数は602名である。運営資金は、これら組合員からの拠出金と政府財源によっている。業務の内容としては、貸付などの信用事業から肥料・飼料・布・砂糖などの販売で、中心は貸付などの信用事業である。

V アバネリ村の工業活動

1) アバネリ村の工業の種類と立地

表3に示すようにアバネリ村において工業と言えるものは、陶工4戸、木材加工1戸、大工2戸、精粉業1戸である。陶工に従事するのは、クマール層である。1961年時点においては、16戸のクマール世帯があったが、実際に陶工を営んでいたのは、10戸であったので、さらに陶工業者は減少したことになる⁹⁾。大工は1961年時点と同じである。近年新たに起こってきた工業としては、木材加工業と精粉業であり、これらはともに電気動力を用いた生産を行っている。陶工は中心集落内の北西部地区に集まり、その他の業種は散在しており、村の中心地区には存在しない(図3)。

2) 各工業の操業形態

陶工からみていくと、何れの陶工も農業または人夫を兼業しており、親子または夫婦による生産を行っている。従って雇用を行うことはない。小さなコップから水瓶まであらゆるタイプの陶器生産を行っている。生産は陶工の自由意志で行われ、1カ月に400~600kgの陶器を生産する。原料となる陶土は、牛車でアバネリ村の内部及び近くの村より運ぶ。燃料としては、アバネリ村内の木を利用する。操業期間は、3月から8月までの乾期に限られる。主な道具は、石製のろくろ(Chak:直径1m程度)であるが、比較的長期にわたって使

用される。購入先は陶工により様々である。主な客は、グジャールとブラーマンであるが、ジャジマニ制を残しており、現物交易を行う。その場合の支払いは食料用穀物であることが多い。近年金属製の食器などが普及してきたので、陶器の需要が低下してきた。従って陶工に従事する世帯が少なくなってきたものと解される。

大工は、2名いるが内1戸は農業との兼業である。これもジャンギッドのカースト的生業であり、村人の注文により木製家具の制作や農具の修理などを請け負っている。木材はアバネリ村内で確保されるが、一般には客が自ら持参するが多い。No18の大工は1人の労働力ながら月当り生産力は、No17の大工(労働力3名)の生産力の2倍であるが、これは機械の導入による差であると考えられる。No18の大工は、近年操業を始めたものであり、No16の製材業世帯とは親戚関係にある。本来このNo16の世帯が、代々大工を行ってきたが、これも近年機械を導入して、専ら木の製材・加工のサービスを行っている。またこのNo16の製材業者は、電気動力を利用して、精粉業も同じ場所で営んでいる。No17およびNo18の大工は共に、現物交易を行っている。たとえばNo16の大工は、15~20戸の客を持ち、報酬として穀物の供与を受けている。

精粉業者は、No19とNo16(製材業を兼ねる)の2世帯である。両者は、カーストも異なる。No19の世帯は、雇用労働力1名を用いている。この世帯は、精粉業を営む傍ら、アバネリ村内で雑貨商も営んでいる。アバネリ村内での精粉業としては、No18の方が1年ほど早い¹⁰⁾が、何れも近年始められた機械力を用いた村落内工業である点において注目される。

現在本村には、鍛冶屋がみられない。聞き取りによればかつてはアバネリ村にも数名の鍛冶屋が存在したようであるが、需要の低さからバンディクイなどへ出て行ったとのことであった。

VI アバネリ村のサービス業活動

1) アバネリ村のサービス業の立地と営業形態

アバネリ村内では、2つの床屋と3つの仕立屋がある。これらは何れも村の中心に当たる地区に立地している（図3）。

表4 アバネリ村のサービス業者一覧

No.	業種	カースト	年齢	兼業	父親の職業	開設年	土地所有	仕事場	現物交易	主要顧客
20	散髪屋	Sain	55	無	散髪屋	世襲	無	持ち家	有	Brahman
21	散髪屋	Sain	17	公務員	散髪屋	世襲	無	持ち家	有	Brahman,Gujar
22	仕立屋	Sain	40	農業	雇用労働者	1986	0.62エーカー	賃貸	無	Brahman,Mali
23	仕立屋	Barwa	35	農業	農業	1985	4.3 エーカー	賃貸	無	Barwa,Gujar
24	仕立屋	Sain	25	農業	個人サービス	1984	5.5 エーカー	賃貸	無	Sain,Brahman

(1987年8月実態調査により作成)

表4に示すように2軒の床屋は、カースト的生業としてセイン(Sain)によって行われている。うち1軒(No21)は公務員との兼業で、週末のみ散髪を行っている。村内の比較的上層の農家9軒(アバネリ村内5,アバネリ村外4)ほどが固定客で、現金支払いを受けず、年間100kgほどの小麦やバジラ(bajra)などの現物による支払い、即ち現物交易を行っており、古い形態であるジャジマニ(jajmani)制を残している。この床屋のアバネリ村内のジャジマン(jajman)は、ブラーミン層とグジャール層である。もう1軒は、床屋専業であり、15軒ほどの固定客を持ち年間150kgの小麦の提供を受けると同時に一部現金による支払いも受けている。

3軒の仕立屋は、何れも村外から来ているもので、いわば通勤の形をとっている。No22とNo24は、何れもバダガオン(Badagaon)から、No23はトゥールワラ(Toorwara)から来ており、極めて近い。これらの仕立屋は、何れも農業を兼業している。アバネリ村へ来たのは、1984年以降なので極めて新しい。何れもアバネリ村の中央部分にある家屋の一角を借用しており、客の注文により仕立てのサービスを行っている。現物交易は行わず、すべて現金商売である。店の将来の計画については、何れの仕立屋とも、裁縫機械を新しく更新し

店を大きくすると答えており、将来に前向きな姿勢を持っている。この点前述の床屋は、この様な将来的計画を何等持たない。

VII 地方都市バンディクイとアバネリ村との都市農村関係の一端

本調査村アバネリ村は、バスワ郡中心都市バンディクイに極めて近く、純農村とは言い難い側面を持つ。バンディクイは小さいながらも地方の都市労働市場として、アバネリ村に対し鉄道関係の業務や日雇い人夫の雇用といった、恒常的及び臨時的両面の雇用機会を提供してきた。しかしバンディクイの都市的発展は、極めて弱く、人口増加率は自然増加率を上回らないほどに低い。つまりバンディクイは、鉄道雇用による発展を頂点としてその後の都市的産業の発展が低調であったのである。ジャイプール県全体においても地方都市の人口的成長は、元来それほど大きなものではない。1971~81年にかけての都市部(Cities & Towns)の人口増加総数は、440,756人でその内361,907人がジャイプール市における人口増加数である¹¹⁾。したがってジャイプール県の都市部地域における人口増加数の82.1%は、州都であり県都でもあるジャイプールにおいて起こったことになる。別の見方をすれば、特定の大都市への極端な人口集中と

いう都市的発展が、地方都市への人口集積を妨げひいては地方都市の都市的発展を妨げていると言えるのではなからうか。バンディクイのような地方都市の影響下にあるアバネリ村において、例えば農業において商品生産的な農業あるいは都市近郊農業的な部門が発達しえないのは、このような地方都市人口の停滞によるところの消費市場の拡大がほとんど起こらないためと考えられよう。

またアバネリ村内の特に商店経営者にとって、バンディクイは最も重要な商品仕入れ地であると言うことである。ほとんどの商店では、月に何度とバンディクイに仕入れに行く。それも自転車や牛車などの簡単な運搬用具によってなされ得るのは、近接性の故である。

以上を概観すると、本調査村アバネリ村は、バンディクイというやや都市的発展において低調な地方都市の近郊農村として存在してきた。20年ほど前と比較するとアバネリ村の商工業活動は、商店の数の増加などにみられるように、わずかながら発展してきている。しかしそれらの商店はいずれも小規模で、かつ農業などの兼業形式で行われているものがほとんどである。

注

- 1) Govt.of Rajasthan(1981) : Census of India 1981, District Census Handbook, Rajasthan, pp. 508～509.
- 2) Bandikui Panchayat Samit (1982) : Development programme unit, provisioned by Rajasthan Govt.
- 3) 前掲1), pp. 394～395
- 4) 前掲1), pp. 628～629
- 5) 前掲1), pp. 420～421
- 6) Govt. of Rajasthan(1987) : Rajasthan District Gazetteers, pp. 892～893.
- 7) Govt.of India (1961) : Census of India 1961, Village Survey Monographs, Abhaneri, pp. 23～24.
- 8) Chand Baori は、8世紀頃、Raja Chandra によって作られたもので、周囲を壁で囲み、内部は約20mの深さを持つ井戸が掘られ、三方より階段で下ることができるようにされている。この Chand Baori の西にある Harshat Mata と呼ばれる寺院も同時期に造られたものと考えられており、非常に優れた技法を持つ彫刻がいたるところに施してある。
- 9) Govt. of India (1961) : Census of India 1961, Village Survey Monographs, Abhaneri, pp. 24～25.
- 10) ジャジマニ制は、金銭を媒介としないインドの伝統的な物質・サービスの交換取引形式で、ジャジマン（サービス受給家族家長）とカミン（サービス提供者）との間の閉鎖的経済の下での制度である。
- 11) Directorate of Economics & Statistics, Rajasthan (1986) : Statistical Abstract (Special Number), p. 14.